



■2009年8月のマンスリーNEWS

## 暑中お見舞い申し上げます。

猛暑の中、いかがお過ごしですか？皆様のご健勝をお祈りしています。



小田原営業所 一同



海老名営業所 一同

### ■コラム

#### ■8月のアークル

売上げは自らつくるもの！！原点の戻らなければ...

ば・・・

私達はここ数年大切なことを忘れていたようです。（大反省・・・）今現状、飲料自販機はほとんどが、フルオペサービスになり”お客様が商品を仕入れる”というレギュラーサービスは、ほんのわずかとなってしまいました。当社の10年前はフルオペサービスなどはほとんど無くレギュラーサービス中心の営業をしていました。その頃の売上げは、自販機を置いているお客様に商品を売らなければならなかったため、お客様の接点がとても多い営業内容でした。つまり商品の売り込みも、熱心な営業で出来た時代だったのです。しかし、現在のようにフルオペ中心になると、自販機がどれだけ売ったか？という結果重視の考え方に変わります。つまり、「営業をして売上げをとる」というより「いかに売れる自販機を作るか？」という事に重点がおかれる訳です。実はこの考え方が、知らず知らずのうちに売上げを落とす結果になっているのに気付かなかったのです。



先日、何気にテレビを見ていたら大型シューズチェーン「ABCマート」の特集をやっていました。その内容は驚くべきものでした。彼らは店舗商売でありながら、”売上げを作る”という実践しているのです。その日の売上げ目標が厳しいと判断すると、つかさずタイムセールを行い、

店頭で店員さんが立ってお客さんを店内に引き入れいくのです。私はこれを見て、衝撃を覚えました。

私達は自分達で”売上げをつくれる商売”でありながら、それをしていなかったからです。

そこで7月期はなんとしても数字をやるということを決めてとりかかってみました。すると大きな変化が現れます。まずは社員の意識の変化です。そして売上げも・・・”数字を追う気持ちは自販機に伝わる”これは絶対に言えることだと確信をしました。

それから私達がこれから自販機ビジネスをしていく上でとても大切なことに気付きました。その内容はまた来週、書きます。

それでは。

## ■コラム

### ■先月の売れ筋商品

DYDO売れ筋ベスト5	SUNTORY売れ筋ベスト5
1位 ダイドブレンドコーヒー	1位 ボスレインボーマウンテン
2位 デミタスコーヒー	2位 ボス贅沢微糖
3位 Mコーヒー樽	3位 南アルプスの天然水500PET
4位 富士山天然水500PET	4位 ボスブラック
5位 朝摘み450PET	5位 ボスカフェオレ

## ■コラム

### ■DYDO秋の新商品

		
復刻堂・森永ミルクキャラメル ミルクケーキ	復刻堂・森永ココア	ホットレモン
		
ゆずレモン紅茶	葉の茶・玄米茶	D-1赤道微糖

今秋の目玉は森永のキャラメルミルクケーキとココアかな？

## ■コラム

### ■世界一の経済大国になるのは間近!?

Voice (ボイス) 8月号より

この題名を聞いて皆さんはすぐピンと来ましたよね。そうです。中国のことです。今回はボイス8月号よりジム・ロジャーズの対談から今後の中国の進化を読み取っていきたい

と思います。

上海総合指数は昨年8月に底を打ってから、今年6月まで約60%の上昇をしています。中国経済はいよいよアメリカ中心の欧米経済とさよならをして、独自の上昇を続けていくのでしょうか？

昨年10月の講演より

## 資本主義化する中国、社会主義化するアメリカ

—中国株は有望と言われましたが、ディスクロージャー（情報開示）という点でいえば、まだ十分ではない点があるのではないのでしょうか？

ロジャーズ

それはアメリカ企業のことを言っているのですか？（笑）破綻したベアー・スターズやリーマンブラザーズのことをお忘れですか？

—リーマンショック後、アメリカをはじめ西欧の資本主義は一斉に、銀行の国有化や企業救済など、“社会主義国化”したかのような政策を打ち出しました。しかしそのようなシステムをかつてから構築してきた国、それこそが中国です。株価が急回復しているのも中国の体制が、極端にいうなら「最先端の経済モデルだから」といえる部分があるのではないですか？

ロジャーズ

現在の中国はますます資本主義的になっています。アメリカは逆で、ますます社会主義的になっている。世界的に見てこれは大きなシフトです。

今後20～30年後、アメリカではさらに政府のコントロールが増大し、混乱も増すでしょう。一方中国は政府のコントロールが減少し、大成功を収めるでしょう。

このようにオープンになって資本主義化する市場は、閉鎖的になって社会主義化する市場よりもずっと素晴らしい。中国の変化の方向は非常に健全です。だからこそ、これからは「中国の時代」であると私は言いたいのです。

—しかし中国は国家管理経済が発達しているため、資本主義国に比べ政策決定の実行スピードが速く、それが迅速な経済対策の実施につながるという面はないのでしょうか？

ロジャーズ

中国の多くの経済のセクターでビューロクラシー（官僚制）、すなわち意思決定における煩雑なプロセスがありません。だから政策決定が早いのです。もちろんそれがまったくないと言っているわけではありませんが、経済セクターのほとんどの部分がフリーマーケット状態になっています。現在アメリカや日本において、このような状態は考えられません。あまりに意思決定がビューロクラティックであるため、政策を実施するのが遅れてしまうのです。

—中国政府がスピーディーに打ち出した4兆元規模の投資を含む内需拡大策は、その強みを最大限生かしたものだと思います。中国経済の回復に対する期待感が日本の産業界でも高まっていますが、内需型経済へのシフトはうまくいくとお考えですか？

ロジャーズ

内需を高めることは長期的戦略として有効です。しかし、そのためには消費支出を高めるための政策が必要となる。国民の収入を上げること、自動車購入を奨励すること、田舎の市場を開発すること、不動産市場を安定させ、とくに低収入世帯に住宅を提供し、去年の四川大地震で破壊された地域の再建を加速すべきです。

中国政府は、農民や収入のあまり多くない都市生活者への援助を続けています。9080億元もの大金を使い、国民生活を向上させ、消費を刺激する状況をつくらうとしているのです。

中国の場合、財政出動を倍にすることには問題がありません。外貨準備高として1.94兆ドルがあるわけですから。むしろ本当に必要な部分にどうやってお金を回していくか、というほうが重要でしょう。銀行は、規模が小さかったり、田舎にある企業にはお金を貸しません。一方で、そのような企業もお金を借りようとはしません。しかし、私は6月半ばにバケーションで10日間ほど中国に滞在しましたが、すでに奥地は消費ブームになっていました。金融危機のかけらも見られません。甘粛はとて賑わっています。道路や灌漑用水路はいうまでもなく、鉄道だけでも126本が建設されているのです。

人民元が基軸通貨になる日

— アメリカが更に混乱し、中国が大成功すれば、いつの日か、アメリカに代わって中国が21世紀の覇権を握る日が来るかもしれません。ジョージ・ソロスはタイム・フレームに触れることなく、中国はいつかアメリカを追い抜くだろうと述べていますが、どう思われますか？

ロジャーズ

そうなるかもしれませんが、それはもっと先のことです。次の10年、20年では起りません。

— 他のインタビューで、長期的にみれば人民元がドルに代わって基軸通貨になる、とも言われています。

ロジャーズ

現状、人民元は管理通貨ですから、いますぐドルに取って代わるという議論はクレージーです。しかしさらに長い目でみれば、これから何がどう動くかは誰にもわかりません。

先ほど述べたように、中国は日々市場をオープンにしていますから、長期的にみれば、その可能性は十分にあるでしょう。事実、ブラジルのルーラ大統領は、中国への請求は人民元建てで行う、と提案を行ったほどです。やがて台湾との貿易にも、人民元が使われるかもしれません。そのような動きが大きくなっていけば、人民元は自由に変動する通貨になる必要が出てくるでしょう。そうなった場合、ドルに対してその価値も劇的に上がります。

2010年のあいだにも、私はドルの下落が起るのではないかと見ています。ドルはとても欠陥のある通貨です。ユーロのほうがその欠陥が少ないといってよい。私はアメリカ人ですからドルを信用したいのですが、現実とともに生きていかなければなりません。今年か来年までに、出来るだけドルを売ろうと考えています。

ドルが反発しているように見えても、それは人為的な動きであってだまされてはいけません。アメリカは決して安全な避難場所ではありません。一見経済規模が大きいように見えますが、世界最大の債務国なのです。他国に対して13兆ドルもの赤字がある。中でも中国に対する赤字は巨額です。

これは通貨の価値を下げ解決できる問題ではありません。歴史的に見ても、通貨の質を下げてこの問題を解決した国は存在しません。アメリカは何年ものあいだ、円に対してこの方法を使い、解決を試みてきましたが、けっしてうまくいきませんでした。問題はもっと根深いところにあるのです。だからこそ、私は自分のもっているドルを売ろうとしているのです。

— アメリカがもう世界を牽引できないとして、次の主役に中国になることはありえますか。

ロジャーズ

中国は今最も成長している経済国ですが、世界経済全体をスランプから脱出させることは難しいでしょう。現時点では中国経済とインド経済をあわせても、アメリカ経済の規模のほうがはるかに大きいからです。4兆元の財政出動といっても、そういう観点からみればあまりに少額です。

しかし、中国の銀行は十分資本をもっていて、その貸付は経済成長に直結します。世界中が混乱していますが、その資本を貸し付けることで中国は自国産業をいち早く救済することが出来るのです。その結果、それが世界経済にプラスの影響を及ぼしていくのは間違いないでしょう。世界経済を救済するまでには至らないでしょうが、世界の人々の自信に大きな影響を与えるのではないのでしょうか。

中国がより資本主義化し、日本やアメリカが社会主義化しているというのはなんと皮肉なことでしょう。

ミクロ的には中国はまだまだ問題が多いのかもしれませんが、マクロ的に見れば今後大いに発展することは間違いなさそうです。私達はお隣の国中国が発展する様子を指をくわえて見ているだけでいいのでしょうか？

## ■コラム

### ■DNAで見る最先端の予防医療とは？

先日ある会合で、面白い人を紹介されました。その人は数年前に年収〇億円の外資系証券会社を脱サラし、今の会社を立ち上げたそうです。その会社の業務がとても興味を引くものだったので、実際にその会社の客になり、実際の様子をレポートしたいと思います。

その会社は疾病予防をDNA採取によって遺伝子学の観点から行っているというものです。

よく考えているみると私達は生命保険やガン保険など、起こったあとに対するヘッジにお金をかけています。しかしリスクそのものにならないようにヘッジをかけるという、予防ということに対しては以外と無頓着のような気がします。

日本の医学教育では病気にならないための予防栄養学というものを教えていません。この分野では欧米に対して30年遅れていると言われていています。つまり日本では「病気を未然に防ぐ」という概念がなく、「早期発見、早期治療＝病気になってから対処する」が当たり前になっています。

つまりこの会社のサービスはお客さんのDNAや血液を採取し、その人のためだけの健康アドバイスブックを作成しフォローアップをしていくということになります。実際の流れは以下のようになります。

DNA検査  
血液検査  
管理栄養士によるカウンセリング



オーダーメイドアドバイスブックの  
作成・提案  
疾病リスクの明確化  
栄養・運動・サプリメントの最適な提案



管理栄養士によるフォロー  
アップ

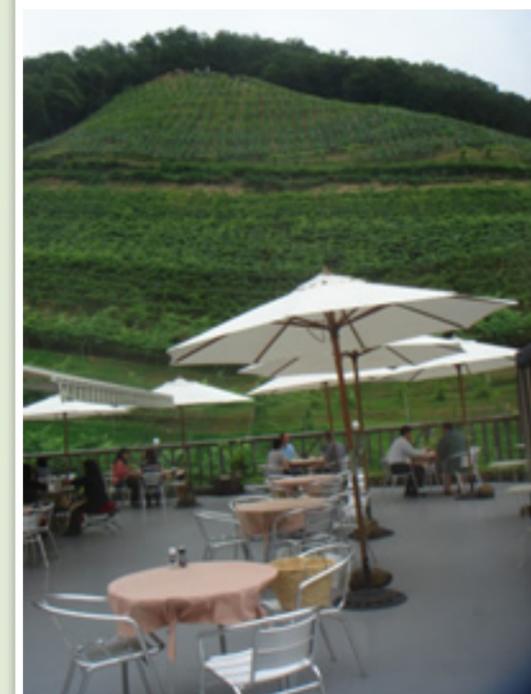
とりあえず、先日カウンセリングとDNA採取に担当者が来られ2週間後にアドバイスブックができるとのこと。カウンセリングに関しては日頃の食事や運動に関してかなり事細かに聞かれます。どんなアドバイスブックが出来るのか楽しみです。

もし興味がある方は当社まで御一報ください。ご紹介します。

生命保険の一部を予防にかけていくっていうことを考えたら、今後この市場は大きなものになる気配があります。

## ■コラム

### ■ココファームワイナリー・障害者のいかしているワイン



さる7月の末、前々から訪問したいと思っていたココファームワイナリーに行きました。

皆さんはココファームワイナリーのことをご存知ですか？たまにTVなどの取り上げられるいる方も多いと思います。2000年の沖縄サミット・2008年の北海道洞爺湖サミットでココファームのワインが使われたことでかなり有名になりました。

ココファームワイナリーはなぜサミットに使われるほど良質なワインを製造することができたのでしょうか？良いワインを造るには良いぶどうが欠かせないというのは常識です。醸造所の隣には、知的障害者施設「こころみ学園」があります。この園生たちがひたむきにぶどうを育てているのです。

日当たりや水はけのよさに加え、決して手の抜くことのない園生たちの真っすぐさが、良質のぶどうを生み出す訳です。

レストランから見るブドウ畑



平均斜度38度の急斜面にぶどう畑が広がる



除草剤を使わない畑は常に草刈りをしなければ・・・

こころみ学園の川田昇園長がこの地を開墾したのは1958年。養護学級の教員だった川田さんが私財を投じて山を買い、知的障害者は学校を卒業しても働く場所がないのでその場を作ろうというのが始まりでした。当時果物なら収穫してすぐ食べられる上、高く売れました。また、開墾の際伐採した木でシイタケの原木栽培も始め、2年がかりで3ヘクタールの畑を開いたのです。

ぶどう作りを始めてから、厳しい環境での農作業が知的障害者の症状改善に役に立つと気づき、69年に園生30人で更正施設としてスタートを切ったのです。制約を受けたくない補助金も断り、6割を自己資金でまかない、残りは寄付を募り、銀行借入はわずかにとどめ、建物も職員総出で工事し、建築費用も最低限にとどめました。

ココファームワイナリーは有限会社、こころみ学園は社会福祉法人、一見交わらないような関係はどのようにできたのでしょうか？実は最初から有限会社を目指したわけではなく、「社会福祉法人ではワインの醸造免許が下りない」という理由からやむなく会社にしたのが始まりだそうで、80年にココファームに賛同する園生の父母達の出資で設立したのが始まりということだそうです。学園の事務局長佐井さんは「学園は苦勞しながらぶどうを育て、ココは赤字にならないように経営努力を怠らない。すごくいい関係」と言う。ただ、本来の目的である「こころみ学園の園生の更正」という目的が大前提にあることを強く主張なさっていました。

園生が作ったぶどうは、ココが一括して買い上げ、経費を考慮して再生産が出来る価格で安定的に購入する。ワインの瓶詰めなど園生が手伝う作業は学園に業務委託するという形をとり、工賃を学園に払う。ココはこうした支出を前提にいかに売上げを伸ばすかを知恵を絞るという仕組み。

89年に米国人の醸造家、ブルース・ガットラップさんが参加してからは、品質が目覚しく向上、94年には高い技術が必要なスパークリングに挑戦、ココの名前を全国に広める契機となりました。「知的障害者の造るワイン、ではダメ。同情では商売はできない。とにかくおいしいワインを造らなければ」というのが、園長の最初から力を込めて言っていた事なのです。

足利の山をを開墾して今年で52年目。「知的障害者を助ける」ではなく、「一緒に生きる」という川田園長の方針は今も変わらない。最高のぶどうとワインを造るということでは、園生も職員も同列。「与える者」と「与えられる者」ではなく、全員が役割を果たす。それぞれが自分に出来る事に取り組みその道を突き詰める。草刈りのプロ、瓶詰めのプロ、園生の生活を支える家事のプロ。「一人一人がプロになってはじめて、本当の自立がある。」と。まさに、「人が生きる」という意味を見せられた感じでした。

見学が終了し、バスに向かう道すがらいきいきと農作業をする園生達に元気な声で手を振られ見送られると、素直に手を振って答えている自分がいました。

園生は現在128名。10代から80代までいるが、平均年齢は52才と高齢化してきています。  
最近では園で亡くなる方もいるそうだ。

大きな声で挨拶をしてくれる園生。とても爽やかに感じます。

皆さんも機会があればたずねてみてください。

こころみ学園のワイン醸造所

ココファームワイナリー

住所：栃木県足利市田島町611

TEL：0284-42-1194

もくもくと農作業をする園生達

汗水たらして働くことが、生きる喜びを生む。

楽しそうに作業する園生の姿はとても印象に残りました。



ワイン売り場



お菓子なども販売



ワイナリーの醸造タンク

醸造所併設のショップやレストランに行くと、かなり低コストの建物なのに洗練されていてセンスの良さが伺えます。そして何より、そこから正面に見える急斜面のぶどう畑の景色が圧巻です。

#### ■コラム

**■アークルの人達ブログ・絶好調連載中です!**

ただいまブログは8名が更新中です。

・所長のブログ (小田原H所長)

**NEW** ・マネージャーの部屋へ

・情報最前線 (海老名K所長)

**NEW** ・つんつるてんSTORY

・販促課オオクワ80mm

・産地直送! 新鮮ネタ (海老名Nチーフ)

**NEW** ・パソオタの独り言 (パンドラの箱を開けて最後に出てくるのは・・・)

7/19 (日)、アークルプライベートコンペが大厚木CC桜コースでありました。今回のプライベートコンペは、早朝プレイプランを利用したため朝5:00からのプレイとなり



ました。皆さん眠い目をこすりながらやって来るの想像しましたが、皆さん元気ハツラツで来られたのはびっくりでした。

夏の早朝プレイは涼しく、また1日を有効に使えるのでとてもいいものです。また、なんと自己ベストスコアという人が5人もいて、みなさん楽しいラウンドができたのではないのでしょうか。

優勝者は自己ベストを出した当社のM君です。おめでとうございます。それからK産業の社長Kさんは驚くべきことに73のラウンド。(もちろん自己ベスト)。しかしながらハンデで準優勝でした。

来年夏には、早朝プレイゴルフコンペをやりますので参加したい方はご一報を・・

今月は以上です。又、来月号も宜しくお願ひします。

#### ■2008年度のマンスリーNEWS

→	2009.07	アークル	マンスリーNEWS
→	2009.06	アークル	マンスリーNEWS
→	2009.05	アークル	マンスリーNEWS
→	2009.04	アークル	マンスリーNEWS
→	2009.03	アークル	マンスリーNEWS
→	2009.02	アークル	マンスリーNEWS
→	2009.01	アークル	マンスリーNEWS

#### ■マンスリーNEWSアーカイブ

→	最新	マンスリーNEWSトップページ
→	2008年度	2008年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	2007年度	2007年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	2006年度	2006年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	2005年度	2005年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	2004年度	2004年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	番外編	マンスリーレポート番外編

